

1. 国際標準はユニバーサルバンキング

- ◎ **米国**：制度を維持しつつ柔軟運用
 - ・ 銀行・証券・保険の金融子会社方式を維持しつつ、一定の制約下で一体的経営が可能
 - ・ **貸出能力は国際競争力の源泉**との認識の下で諸規制を緩和
 - ・ ハイイールド債市場の拡大
- ◎ **EU/UK**：伝統的ユニバーサルバンキング
 - ・ **シンガポール、韓国、中国**：実質的ユニバーサルバンキング
- ◎ **貸出資産の市場化・分層化進展**
 - ・ 銀行規制強化への対応・業態間協業が進展
 - ・ 情報遮断ファイアウォール規制は日本のみ
 - ・ 貸出以外の資金供給拡大

2. 日本：1990年代の金融危機 ⇒リスク管理・分散に慎重な規制運用

- ◎ **ファイアウォール規制**：
情報遮断から情報共有による利益相反監視への進化の時期
 - ・ 利益相反・モラルハザード監視は世界的共通課題＝諸外国の実施例に準じた制度に
 - ・ 銀行の優越的地位対応には情報共有が有効
 - ・ 銀行に証券化の誘因付与が必要
 - ・ 出力フロア対策として、銀行貸出能力維持にも証券化によるリスク移転認可必要
 - ・ 融資と株式の間のトランシュ分けした市場育成

3. 現制度下での制度進化： 現実的ステップ

- ・ ファイアウォール規制高度化
- ・ EU利益相反ポリシーに準拠
- ・ 利益相反実証過程を経て段階的移行
- ・ 長期成長資金供給のための証券化推進
- ・ 社会的無形資産としての銀行情報の共有
- ・ 過剰預金の長期成長資金供給への転換
- ・ メザニン市場の育成
- ・ 金融市場の横断的監督体制整備

経済成長の源泉＝新技術＝リスク

銀行のリスク負担には構造的限界⇒金融市場全体で広くリスク負担⇒証券化

日本金融市場の国際競争力低下 ⇒ 日本経済の低成長 ⇒ **過剰預金の長期成長資金への転換**

- ・ 銀行情報の共有による金融市場全体でのリスク管理の高度化
- ・ 市場の透明化・情報化による社会的リスク分散・負担制度の確立
- ・ トランシュ分けしたハイイールド債・社債市場の育成

市場参加者の合理的行動 ⇒ 「貯蓄から投資へ」